

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

科目コード：4990180／31M220-1344S／31D220-1344S

講義名：アジアでがんを生き延びる

アジアで がんを生き 延びる

がんは現代をうつす鏡
です

日本においては、生涯のうち二人に一人がかかる病とされ、アジアにおいても大きな社会課題となっており、がんの臨床研究は飛躍的に進み、AI、ビックデータ、IoTの恩恵を受けた次世代がん医療への期待が高まっています。

本講義では、アジアに向けて何ができるかに視点を置きつつ、ジェロントロジー、地域社会、死生観、生涯教育、健康経営、SDGs、ESG投資、腸内細菌、癌ゲノム、ビックデータ、AIなど、今日の課題に焦点をあて、それぞれの第一人者の方たちと議論をしたいと思っています。がんという病を通して、いまを生きるわたしたちが直面している問題の実像が浮かび上がってくるはずですよ。

夏学期講義日程

火曜日 5限 16時50分—18時35分

福武ラーニングシアター 他

*耐震工事が入るため場所の変更の可能性があります。詳しくは www.siccn.org

担当教員： 東京大学大学院情報学環・学際情報学府

総合癌研究国際戦略推進寄付講座 特任教授 赤座英之

特任講師 河原ノリエ

4/16 がんはアジアの未来に何をもたらすのか？—Cross-boundary Cancer Studies ・赤座英之 [東京大学大学院情報学環特任教授]

4/23 人と人を繋ぐカー マギーズの取り組み事例から学ぶ ・秋山正子 [マギーズ東京 センター長]

5/14 がんのエスノグラフィー 質的研究論文をエッセーとよばれないためには？ ・波平恵美子 [お茶の水女子大学名誉教授]

5/21 多死社会を生き延びる—ジェロントロジーからの問題提起 ・辻哲夫 [東京大学高齢者総合機構教授]

5/28 がんは人を成長させる—自分と対峙する世界に降りていくということ ・なかにし礼 [直木賞作家・作詞家]

6/4 人生100年時代のがん学—社会課題を自分事化する ・牧野篤 [東京大学大学院教育学研究科教授]

6/11 がん与健康経営—その商いは未来を祝福しているのだろうか？ ・小林文彦 [伊藤忠代表取締役専務執行役員]
・西口洋平 [キャンサーペアレンツ代表]

6/18 がんとうHC—誰も取り残さない世界を目指して ・河原ノリエ [東京大学大学院情報学環特任講師]

6/25 AIはがん医療をどのように変えようとしているのか？ ・TBA

7/2 食とくらしとサイエンス—腸内細菌とがん ・平野宏一 [ヤクルト本社常務執行役員]、服部幸應 [服部学園理事長]

7/9 がんデータはどのようにしてつくられるのか？—ゲノム医療とがん ・増井徹 [慶應義塾大学医学部特別招聘教授]
・中金斉 [国立がん研究センター理事長]

7/16 がんとうESG投資—SDGsからの問いかけへの応答 ・TBA

7/23 グローバルヘルスとしてのがん医療 ・佐藤孝徳 [武田薬品工業株式会社パブリックアフェアーズ国際機関渉外ヘッド]



なかにし礼先生



服部幸應先生



連絡先

東京大学大学院情報学環・学際情報学府 総合癌研究国際戦略推進寄付講座

担当:河原 Email: norie.kawahara@siccn.org TEL. 03-5452-5347

*再履修可能です。日本アジア学 修了証対象 科目となっています。 詳細は www.asnet-utokyo.jp

*単位取得はできませんが大学院生以外も聴講可能です。

受講生の声から

2011年から続くこのシリーズを受講した過去の受講生からの声をもとに本講義のエッセンスをのべさせていただきます。

文系理系を超えた幅広い視点を持ちたいあなたへ

がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする学際連携プログラム「Cross-boundary Cancer Studies」の一環に位置づけられています。「研究とは自らの問題意識を丁寧に育てていくこと」であり、各テーマごとに深掘りされていく場所へ降りていくことで、自分の専門分野を相対化してみることが促される仕掛けになっています。

がんというやまいの本質を知りたいあなたへ

がんという自分からは遠いとおもっていた事象を具体的に学ぶことで、その本質を理解することができます。この疾病がなぜ、このようにマスコミで多くとりあげられるのか、社会のどのような構図とむすびついているのか、最先端のバイオテクノロジー、AIから、地域、家族、個人のありようなど人間存在の根源的課題に至るまで、このがんというやまいの今日的な課題のありようを学ぶことができます

本物のリーダーシップを学びたいあなたへ

講師の人選にあたっては、それぞれの分野で重い課題を背負いながら、世界を切り拓くことについて、自らの言葉でひねり出してくださる方をお願いしました。がんという事象を通し、課題設定と課題解決の力を学ぶことができます。本物のリーダーから本物のリーダーシップの在り方、世界を構造的に見る視点を学んだことで、その後の進路選択にあたって影響を受けたと語る受講生が数多くいます。

論文の書き方に迷っているあなたへ

本講座では毎年、質的研究論文作成についての授業を設けています。参与観察、インタビュー、データ整理、文書調査など、大学院生たちが出会う質的研究遂行のうえでの様々な困難について、具体的事例に則して指導いただきます。

英語の授業参加をためらっているあなたへ

秋冬学期に本講座と連動した英語の授業を開講します。秋冬学期は、今年のG20のテーマでもあるUniversal Health Coverageを切り口にしてがんについて学びます。英語授業に苦手意識をもっている方たちもこれを機会にこの秋から英語で学ぶことを始めてみませんか？がんはグローバル課題であり、文系理系を問わず英語で学んでいくことが特に重要なテーマですから、サポート体制も準備しています。連続した学びで更に、学際視点を深めてみましょう。

参考図書



アジアでがんを 生き延びる

赤座英之・河原ノリエ 編
東京大学出版会 2013年4月刊



Surviving Cancer in Asia Cross-boundary Cancer Studies

The University of Tokyo, JJCO